

## 吉田財団設立40周年記念事業

## 令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

学校名	福岡県立八女農業高等学校
学校長名	堀 利治
報告者	谷 真吾
寄贈品	1.イヌ(トイプードル1匹)
《振り返り》	
教育的課題	1.イヌを扱った授業、実習が十分に行えていない。 2.動物関係分野への進路希望者に対する実践的学習機会が不足している。 3.専門的な技術(グルーミング、しつけ等)の習得が身につけていない。
教材活用の狙い	1.イヌを用いた実習を通して、基礎的な知識・技術の定着を図る。 2.イヌの行動や健康状態を観察し、観察力、思考力、判断力を育成する。 3.イヌの体調や行動の変化に応じて、行動できる対応力や問題解決力を高める。
目的達成の為の工夫	1.事前に基本技術や行動特性を指導し、段階的に実習へつなげる。 2.グループ活動を取り入れ、イヌの行動等の観察、記録を定期的に行う。 3.トラブル対応を想定したロールプレイや事例研究を行う。
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1.イヌを扱うことで、生理・生体の知識と技術の理解が深まった。 2.イヌの行動や健康状態を観察する力が向上した。 3.イヌを扱う実習を通して、思考力・判断力を働かせて行動する姿が見られた。 4.イヌと関わるグループ活動により、実習に協力して取り組む態度や表現力が高まった。 5.イヌを活用した実践的な学習により、動物に関わる職業への関心が高まった。
対象者・利用頻度	1.2年生20名、1週に2回の学習で使用した。 2.3年生30名、1週に2回の学習で使用した。
目的達成状況	1.アンケート結果により、「イヌに関する知識、技術が高まった」と90%以上の生徒が回答した。 2. 46%の生徒が動物に関わる進路が決定した。

教育的効果についての  
の所見等

本教材を活用した実習により、イヌの行動や健康状態を実際に観察しながら学ぶことで、知識と技術が結びつき、イヌの生理・生態、しつけの理解が深まった。生徒は、イヌを扱う際の基本的な姿勢や配慮を意識し、主体的に実習へ取り組む様子が見られた。また、グループ活動を通して、全員で協力して学ぶ態度や表現力の向上にもつながった。

活用状況の写真等(当日の様子など)



導入直後の様子



ドッグトレーニングの様子



ドッグトレーニングの様子



ドッグトレーニングの様子



動物ふれあい交流時の様子



保定の練習の様子

#### 今後の活用見通し・課題

今後は、本教材を継続的に活用し、ドッググルーミングやドッグトレーニングに関する技術の向上を図っていききたい。また、イヌの健康や食性への理解を深める学習として、ジビエを活用したドッグフードの開発にも取り組む予定である。一方で、実習中にイヌが緊張し、落ち着かなくなる、動作を嫌がる、指示が通らないなどの場面に対し、生徒がイヌの行動や健康状態を的確に判断し、対応する力の育成が課題である。これらについては、事前指導や段階的な実習の工夫を行い、授業、実習の改善を図り、専門的な知識・技術をもった人材を育成していききたい。